

## 第2回循環型社会計画策定特別部会等における委員意見一覧

## 1 第2回循環型社会計画策定特別部会（8月31日開催）

答申案における区分	意見等	区分	対応内容
第1章 計画策定の趣旨			
第2章 循環型社会の形成に関する現状と課題			
第3章 目指す循環型地域社会の姿と考え方（⇒目標）	第1節 目指す循環型地域社会の姿		
目指す姿	（笹尾部会長） 目指す姿のスローガンについて、言葉の意味が重複しており、繋がりが分かりにくい。「地域循環共生圏が構築された持続可能ないわて」くらいの表現の方が、伝わりやすいのではないかと。	反映	「地域の特色を生かした持続可能な地域循環共生圏が構築されたいわて」を「 <b>地域循環共生圏を3Rで支える持続可能ないわて</b> 」に修正しました（34p及び概要版）。
2 災害に強く持続可能な廃棄物処理体制の構築	（玉懸委員） 段落の中に「民間事業者」が3回出てくるので、もう少しシンプルな表現にしてはどうか。 また、廃棄物処理法令の改正も踏まえ、「既存の廃棄物処理施設…」は「産業廃棄物処理施設」に置き換えた方が、今の制度に合っているのではないかと。	反映	御指摘を踏まえ、次のとおり修正しました（36p）。 【旧】「また、災害廃棄物処理においては、民間廃棄物処理事業者の保有する既存の廃棄物処理施設の活用をはじめ、民間事業者の果たす役割も大きく、処理の円滑かつ迅速な実施には、様々な分野の民間事業者の能力が最大限に発揮されることが極めて重要となります。」 【新】「また、災害廃棄物処理の円滑かつ迅速な実施に当たっては、民間事業者の保有する産業廃棄物処理施設を活用することも極めて重要となります。」
	第2節 目標		
	（笹尾部会長） 「将来予測」という見出しが入っているが、将来予測の文言があまり書かれていない。例えば全体の排出量が減るということは人口減少から予測できるとして、1人当たりの排出量がどう変わるかという	反映	1人当たりのごみの排出量の予測について、国勢調査における世帯数及び世帯人員別世帯数の推移等の知見を踏まえて追記しました（38p）。

答申案における区分	意見等	区分	対応内容
	<p>ことについては、高齢者が増えて単身世帯が増えているなど、社会的な要素も関わってくるので、もう少しその辺りの予測を含めた方が良いのではないかな。</p>		
	<p>(佐藤委員) 一般廃棄物排出量の予測の際には、今回のコロナ禍の状況を考慮していない、国立社会保障・人口問題研究所の予測をベースとしている岩手県人口ビジョン(令和2年3月に改訂)の推計を頼りにせざるを得ないのか。コロナ禍の状況等を踏まえた現状に即したデータを基に将来予測するべきではないかな。</p>	反映	<p>新型コロナ感染症の発生によるごみ排出量への影響が想定されることについては御指摘のとおりです。一方で、テレワークや移動自粛が広がった本年4～9月において、部分的な影響に留まっていました(別添参照)。</p> <p>引き続きごみ排出量の推移について分析するとともに、将来排出量予測に反映すべきデータについて情報収集を行い、必要な対策を検討していきます。</p> <p>なお、一般廃棄物の将来予測において、コロナ禍の本県における廃棄物発生量に及ぼす影響について、今後の動向に注視していく必要がある旨を追記しました(38p)。</p>
<p>一般廃棄物関係指標<sup>新規</sup></p> <p>「エコショップいわて認定店等による店頭資源回収量」について</p>	<p>(笹尾部会長) エコショップ認定事業者が店頭資源回収量を増加させるインセンティブについて、県がバックアップして明確にできれば、事業者でも積極的に回収量を増やすことにも繋がってくるのではないかな。</p> <p>(笹尾部会長) 回収資源には軽いものも多いので、指標の達成は簡単ではないのではないかな。</p>	原案どおり	<p>事業者のインセンティブについては、関係事業者との情報交換等を通じて研究し、県として支援する事業を検討中です。</p> <p>また、指標については、認定事業者の回収実績を指標に十分に反映できるよう、報告方法の工夫等を行います。</p>
第4章 循環型地域社会の形成に向けた施策の展開			
<p>3つの基本的な考え方について</p>	<p>(玉懸委員) 3つの項目のレベル感が一定でない。1と3は「社会」について触れていて、2は「廃棄物処理体制の構築」となっており、レベルが異なっている。</p>	反映	<p>御指摘を踏まえ、3つの項目のレベル感及び構成を変更しました。</p>

答申案における区分	意見等	区分	対応内容
3つの基本的な考え方について	(晴山委員) 圏内、地域で循環させなければいけない部分と、広域で循環させなければいけない部分というところについて、もう少し「地域」ということを、3つの基本的考え方で整理できると、「目指す姿」が具体的にわかりやすいのではないか。	反映	答申案概要版の3つの「施策の展開方向」において、特に本県の地域循環共生圏の実現に寄与すると期待される取組を明記するとともに、本文についても整合を取った記載としました。
その他関連事項			
ごみ処理広域化について	(晴山委員) 広域化を進めるに当たって、将来予測などを行っていると思うが、ブロック化するメリットとしてのデータの整理が必要だと思う。	反映	御指摘の趣旨を踏まえ、資料編で整理しました(4 ごみ処理広域化(資料編45p～)参照)。

## 2 第45回環境審議会(10月16日開催)

No	箇所	意見等	区分	対応内容
1	答申案 概要	(伊藤委員) 本編に「2R(ツーアール)」の推進について記載されているが、概要版に記載がないので、追記して整合を図ってどうか。	反映	「2R」の定義や意義について概要版に記載しました。

### 3 その他メール等での意見

No	箇所	意見等	区分	対応内容
1	答申案 第2章 p13	「ごみの循環的利用」について、再生利用される「ごみ」がどのように利用されたのかを示していただけませんか？	反映	御意見の趣旨を踏まえ、容器包装リサイクル協会の資料等を参考に、リサイクルの実態について、記載を追加しました。(13～14p)
2	本文 第3章 p20、表2	「目標値」について、一般廃棄物の最終処分量が記載されている。今後の県内人口の減少を考慮し、他のごみ排出量の指標のように、一人1日当たり、あるいは1人当たりに換算した目標値も併記してはどうか？	原案どおり	最終処分量に関わる「焼却残さ率」は焼却炉の性能が大きく影響しますので、1人1人の排出に関連する目標値としてはふさわしくないものと考えます。
3	答申案 第3章 p38～39	「一般廃棄物の将来予測」について、産廃のような将来見込み（総排出量、内訳、リサイクル率）の図を示してはどうか？	反映	産廃将来推計は集計業務の委託事業の中で算出しており、一廃は同様の推計は行っていない。一廃排出量は人口推移に左右され则认为しておりますが、新型コロナウイルスの影響も見極めながら対応を検討していく旨を記載しております（別添参照）。
4	答申案 第4章 p59	「2 ごみの広域的処理の推進」の4つ目「強靱な焼却施設を整備し、」とあるが、その整備に対する県の役割はどのような内容になるか？	反映	市町村への技術的助言（広域ブロック推進）、国の交付金制度（循環型社会形成推進交付金等）の活用支援等です（59p）
5	答申案 第4章 p58～61	本文の施策の展開方向の2「災害に強く・・・」の(2)に「・・・エネルギー拠点としての整備」と記載されているところ、資料編には焼却施設のエネルギー利用の現状が詳しく記載されていますが、本文での記載が少ないのではないかと。 本文に独立した項を設けて、エネルギー回収拠点化の今後の進め方について、より具体的に記述してはどうか？	反映	国の循環型社会推進基本計画の記載も踏まえ、本県における廃棄物処理施設のエネルギー回収拠点等としての機能に係る記載を追記しました（16、36p）。

# 【別添】新型コロナウイルス感染拡大を受けた外出自粛等によるごみの排出量の 令和2年度上半期（4月～9月）の状況について

## 1 生活系ごみ排出量

令和2年度上半期における県内の生活系ごみ排出量（各家庭から排出されたごみの量。ただし、集団回収量は除く）は145,129 トンで、前年度の143,463 トンよりも1.2%（1,666 トン）増加しました。

月別にみると、6月が前年度よりも16.6%（3,610 トン）増加しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4月及び5月の外出自粛期間中に家庭内で片付けたごみが排出されたこと等が要因として推察されます。

また、6月以外の月では前年度よりも減少しており、特に8月の減少率が大きく、前年度よりも3.6%（936 トン）減少しました。これは、お盆や夏休みの帰省を自粛したことによる人の往来の減少が影響していると推察されます。

### ■生活系ごみの排出状況

生活系	4月	対前年度比	5月	対前年度比	6月	対前年度比	7月	対前年度比	8月	対前年度比	9月	対前年度比	計	対前年度比
H30	23,015	4.2	25,351	▲ 0.3	22,960	▲ 3.7	24,280	2.2	26,409	▲ 5.0	22,692	▲ 4.5	144,707	▲ 1.3
R1	22,596	▲ 1.8	25,500	0.6	21,716	▲ 5.4	24,183	▲ 0.4	26,190	▲ 0.8	23,278	2.6	143,463	▲ 0.9
R2	22,311	▲ 1.3	25,439	▲ 0.2	25,326	16.6	23,778	▲ 1.7	25,254	▲ 3.6	23,021	▲ 1.1	145,129	1.2

## 2 一人1日当たり生活系ごみ排出量

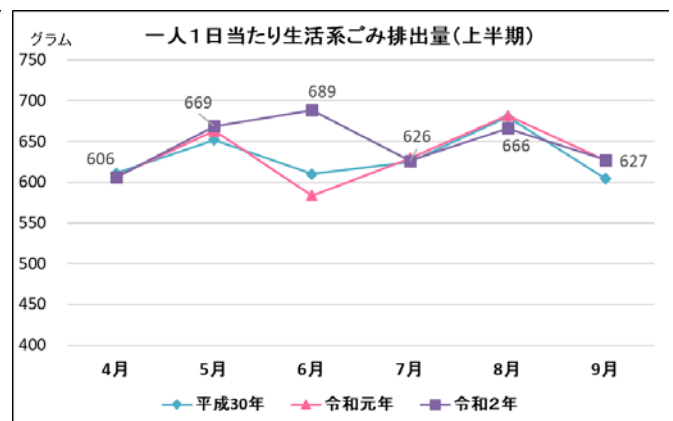
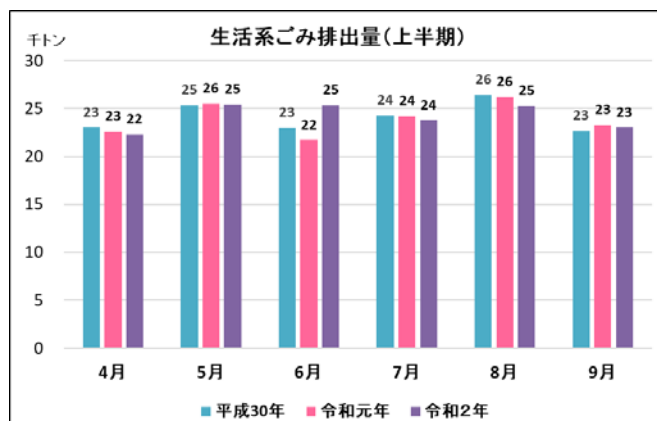
令和2年度上半期における県内の一人1日当たり生活系ごみ排出量は647 グラムで、前年度の632 グラムよりも2.4%（15 グラム）増加しました。

月別にみると、6月が前年度よりも18.0%（106 グラム）増加しました。また、それ以外の月では前年度よりも減少しており、特に8月の減少率が最も大きく、前年度よりも2.3%（16 グラム）減少しました。

### ■一人1日当たり生活系ごみの排出状況

生活系	4月	対前年度比	5月	対前年度比	6月	対前年度比	7月	対前年度比	8月	対前年度比	9月	対前年度比	平均	対前年度比
H30	611	5.4	652	0.9	610	▲ 2.6	625	3.3	680	▲ 4.0	604	▲ 3.3	631	▲ 0.2
R1	607	▲ 0.7	663	1.7	583	▲ 4.4	629	0.7	682	0.3	627	3.7	632	0.3
R2	606	▲ 0.1	669	0.9	689	18.0	626	▲ 0.5	666	▲ 2.3	627	0.0	647	2.4

※一人1日当たり生活系ごみ排出量＝生活系ごみ排出量／上半期の総人口の平均／183日\*1000000



### 3 事業系ごみ排出量

令和2年度上半期における県内の事業系ごみ排出量（スーパーや小売店等の事業所から排出されたごみの量）は61,961トンで、前年度の68,987トンよりも10.2%（7,026トン）減少しました。

4月から9月までの全ての月において前年度よりも排出量が減少しており、特に5月が前年度よりも17.5%（2,017トン）と最も減少率が大きくなっています。

これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、外食や外出を自粛したことにより飲食店やホテル等から排出される事業系ごみの排出量が減少したことや、リモートワークや在宅勤務の実施等に伴い事業所から排出されるごみの量が減少したことによるものと推察されます。

#### ■事業系ごみの排出状況

事業系	4月	対前年度比	5月	対前年度比	6月	対前年度比	7月	対前年度比	8月	対前年度比	9月	対前年度比	計	対前年度比
H30	11,252	4.1	11,979	▲ 0.1	11,652	▲ 3.0	12,142	1.6	12,122	▲ 1.7	10,906	▲ 5.5	70,053	▲ 0.8
R1	11,241	▲ 0.1	11,519	▲ 3.8	10,962	▲ 5.9	12,378	1.9	11,671	▲ 3.7	11,216	2.8	68,987	▲ 1.5
R2	9,961	▲ 11.4	9,502	▲ 17.5	10,840	▲ 1.1	11,066	▲ 10.6	10,312	▲ 11.6	10,280	▲ 8.3	61,961	▲ 10.2

### 4 一人1日当たり事業系ごみ排出量

令和2年度上半期における県内の一人1日当たり事業系ごみ排出量は276グラムで、前年度の304グラムよりも9.1%（28グラム）減少しました。

月別にみると、5月の減少率が最も大きく、前年度よりも16.5%（49グラム）減少しました。

#### ■一人1日当たり事業系ごみ排出量

事業系	4月	対前年度比	5月	対前年度比	6月	対前年度比	7月	対前年度比	8月	対前年度比	9月	対前年度比	平均	対前年度比
H30	299	5.3	308	1.1	310	▲ 1.9	312	2.8	312	▲ 0.6	290	▲ 4.4	305	0.3
R1	302	1.0	299	▲ 2.8	295	▲ 4.9	322	3.1	304	▲ 2.6	302	4.0	304	▲ 0.4
R2	270	▲ 10.4	250	▲ 16.5	295	0.1	291	▲ 9.5	272	▲ 10.5	280	▲ 7.3	276	▲ 9.1

※一人1日当たり事業系ごみ排出量＝事業系ごみ排出量／上半期の総人口の平均／183日\*1000000

